19.　意識下の嚥下反射における部分的麻痺の影響

古谷隆則，小宮あゆみ，伊地弘昭
佐藤研一　　（千大）
井出　徹，磯野　史郎，高知哲夫
水口公信　　（同・麻酔科）

健常者８人に対し，筋弛緩薬 pancuronium bromide (0.02mg/kg) を投与し意識下の嚥下に対する影響をみた。その結果，①上気道の筋は他の筋に対し敏感であった。②筋電図上で舌骨上筋群の活動性は投与前の50%程に，咽頭圧は70～80%に低下し嚥下運動が妨げられた。③投与後に生じる部分的麻痺は嚥下回数を増加させたが反応性へは影響しなかった。

３人について造影を行なった結果，嚥下困難を訴えたがX線上では誤嚥は認めなかった。

20.　周術期管理の困難であった高血圧症患者に対する長時間麻痺の１例

高田　耕司，吉田　幸弘，前田昌彦
村井　為敦，京田　直人，見崎　徹
金山　利吉　（日大・歯・歯科麻酔）
田津原広行，山野井弘充，岩成進吉
工藤　逸郎　　（日大・歯・口外１）

患者は41歳，男性で，右側下顎腫瘍の診断で当院紹介され，既往歴にて高血圧症を有している。全身麻酔下にて，両側頸部郭清術，腫瘍摘出および即時再健術を施行した。手術時間20時間45分，麻酔時間22時間25分であった。高血圧症を有するため，周術期管理に難渋し，特に，術後の高血圧は精神不穏に起因すると思われた１例を経験したので報告した。

21.　障害者歯科診療における医療事故発生について

上原　進（日大松戸・障害者歯科）

障害者の歯科診療は本人に知的にも身体的にも自律が乏しいことから，診療中に傷害事故が発生しやすい。これらにつき事例を中心として種々問題を提起した。

22.　他領域のチームアプローチを必要とする障害歯科診療

上原　進，伊藤政之
（日大松戸・障害者歯科）
秋月一城，宮　恒男，斉藤佳明
永嶋昌之，渡辺泰秀　　（千大）

県立佐原病院の特殊歯科診療の経験から，障害者の歯科診療に，他領域の診療科の参加がいかに有効であり，かつ不可欠であるか，事例をもとに報告した。

23.　骨髄移植患者の口腔管理の経験

甲原玄秋（千葉県こども病院・歯科）

骨髄移植患者の口腔管理を行なった。感染予防のため無菌室に入室し，各種抗菌剤，抗真菌剤，抗ウイルス剤が投与された。口腔管理は Dahllof らの方法を参照し，歯石除去や刷掃指導を行なった。口腔に関連した所見は，一過性の歯肉出血，免疫抑制剤による歯肉増殖，歯肉炎，慢性 GvHD による頬粘膜扁平苔癬，口唇周囲の落屑などであった。前経過を通じ口腔を含めた感染症の合併はみなかった。今後照射による歯牙への影響も観察する予定である。

24.　Mandibular tray と腸骨骨髄海綿骨による下顎再建

小村　健（千葉県がんセンター・頭頸科）

Dacron mesh tray と腸骨骨髄海綿骨（PCBM）により下顎再建し，興味ある術後経過を呈した１例を報告した。X線上，術後１か月まで PCBM は骨化度増加，２か月目では PCBM 上縁の明瞭化。３か月目の骨接合部の骨新生像出現。６か月目では PCBM 上縁の皮質骨様変化。骨シンチ上，１か月までは PCBM および接合部に高集積。２か月では PCBM 部の集積像増幅。３か月目から PCBM 部の集積減少。６か月目では PCBM 部の集積は激減，骨接合部の高集積残存。

25.　β-TCP による骨欠損部補塡の臨床応用成績

長縄智彦，川崎健治
（福島県立医大・口外）

人工骨補塡材として，β-TCP をオリンパス光学より提供を受けた。この材料は白色を呈した多孔質の β-三リン酸カルシウムから成る１cm 角のブロック体で，吸収性であり，成型しやすいという特徴をもっている。これを嚢胞摘出後や埋状歯抜歯後の６例の骨欠損創に応用し，臨床所見，レントゲン所見で評価した。

26.　MC-flap 移植の長期経過後の flap と口腔機能

渡辺泰秀，　宮内健晋，　丹沢秀樹
馬橋敏紀，高橋喜久雄，小林　操
佐藤研一　　（千大）

対象は PM-MC flap 11例，SCM-MC flap ４例で，男性13例，女性２例であり，手術時年齢は48歳から80歳（平均57.3歳）であった。切除範囲は舌切除９例，下顎骨区域切除６例，術後平均経過年数は6.8年であった。現